

既往モデル事業の概要と成果・課題の整理

1. 調査の概要

文献調査より、これまで実施されてきたガラスびんリユースシステム構築に向けた、モデル事業の概要及びその成果について整理を行う。

1.1 これまで実施されてきたモデル事業の概要

これまでのモデル事業としては「規格統一びんの作成・普及啓発（例えば、南九州の 900ml 茶びんの取組、生協等での R ドロップス）」、「回収実験（スーパー・コンビニ、特定エリアの酒販店、宅配業務など）」などが進められてきている。

また、業務店における取組としては平成 21 年度にガラスびんリサイクル促進協議会において、ワタミグループにおけるプライベートブランド商品のリユースシステム確立に向けた事業が実施されており、現在も継続して進められている。

1.2 モデル事業の成果と課題

共通として挙げられている課題を分類すると、「消費者の意識・関心の向上」、「流通の仕組み・体制等の整備・強化について」、「リユースびんに利用に際してのデメリットの軽減、メリットの増強」といった項目が挙げられる。

また、共通課題とは別に、各モデル事業において固有の課題を合わせて整理を行った。

※いずれも文献調査の結果であり、詳細・実態についてはモデル事業実施者へのヒアリング調査などが必要。

2. 既往モデル事業の概要

リユースびん導入促進に向けた既往のモデル事業の概要を以下に整理する。

図表 1 既往調査結果の抜粋

NO	年度	調査主体	実施者等	名称	地域	取組内容	品目・容量	主な販売ルート	特徴
①	H15-16	環境省	(社)環境生活文化機構	南九州における900ml 茶びんの統一リユースシステムモデル事業	南九州地域	リユースシステム構築	焼酎 900ml	酒 販 店	広 域 な 事 業 者 連 携
②	H18	経済産業省	(株)ダイナックス都市環境研究所等	地産地消型商品への規格統一びん導入泡盛びんの地域リユースモデル実証事業	沖縄県	リユースシステム構築	焼 酎 600ml 720ml 360ml 900ml	スーパ ー マ ー ケ ッ ト	独 立 型 地 産 地 消
③	H18	農林水産省	(財)食品産業センター	容器包装廃棄物排出抑制及びリターナブル容器利用等調査	関東地域 (5 店舗)	回 収 実 験	コーラ 190ml	コンビニ	コンビニを 回 収 拠 点 に
④	H18	環境省	(社)環境生活文化機構	東京都内における720ml 等ガラスびんの統一リユースシステム構築モデル事業	世田谷区	リユースシステム構築	ワ イン ・ 清 酒 720ml	酒 販 店、スー パ ー、 生 協	都 心 部 で の 運 用
⑤	H18	経済産業省	ガラスびんリサイクル促進協議会	リターナブルびん宅配システムの構築	茅ヶ崎市	リユースシステム構築	R マークびん、 ビ ー ル び ん、一 升 び ん	宅 配	配 達 時 に 空 き び ん 回 収
⑥	H18	経済産業省	中部リサイクル運動市民の会	エコマネー活用型リユース容器導入促進	名古屋市	リユースシステム構築	R マークびん、 丸 正 び ん	スーパ ー	エ コ マ ネ ー 付 与
⑦	H19	環境省	(社)環境生活文化機構	首都圏近郊政令指定都市における720ml・900ml ガラスびんの統一リユースシステム構築モデル事業	川崎市	リユースシステム構築	清酒 720ml、 焼酎 900ml	酒 販 店	商 店 街 で の 運 用
⑧	H19	経済産業省	びん再使用ネットワーク	エリア限定型の携帯可能リターナブルびん利用・流通システムの構築 (R ドロップス)	関東地域 (3 大学)	リユースシステム構築	ジ ュ ース 300ml	大 学 生 協	構 内 で の 運 用
⑨	H21	環境省	ガラスびんリサイクル促進協議会	外食業務店でのびんリユースシステムの構築	関東地域	リユースシステム構築	清 酒 300ml び ん (フ ィ ラ イ ベ ー ト フ ラ ン ト)	業 務 店	フ ィ ラ イ ベ ー ト フ ラ ン ト び ん

2.1 各モデル事業の概要¹

各モデル事業の報告書及び「ガラスびんリサイクル促進協議会 リターナブルびんナビ」(URL : <http://www.returnable-navi.com/>) の HP で公開されている情報を参考に、その取組の概要、成果・今後の検討課題について整理を行う。

① 「南九州における 900ml 茶びんの統一リユースシステムモデル事業」 (H15～16)

【事業目的・概要】

- 焼酎の統一規格びんを制作、導入し、リユースシステムを構築するモデル事業
- 地域における循環型社会の形成に向けた先駆的・独創的な取り組みとして、南九州地区で主に焼酎の販売等に使用されている容量 900ml の茶びんに統一規格を導入し、回収―洗浄―再使用のシステムを確立することにより、これまで規格が不統一で 1 回の使用で廃棄されていた 900ml びんのリユースシステムを構築するもの。

【成果・今後の検討課題】

- (1) 900ml 茶びん（統一規格びん）の普及促進
 - ・ポスター・パンフレット等を使って、地方自治体、小売店、関係団体等を通じて対象地域の各業界方面、一般消費者に本事業の更なる普及啓発活動を行う必要がある。
- (2) 統一規格びん採用清酒・酒造メーカーの拡充
 - ・南九州における各県の小売店組合の協力を得て、清酒・酒造メーカーに協力を呼びかける必要がある。
- (3) びんメーカーにおける 900ml 茶びんの製造拡大
- (4) 回収専用 P 箱の普及啓発
- (5) 市民レベルの活動促進
 - ・南九州における 900ml 茶びん（統一規格びん）の普及拡大に向けて活動を開始した市民レベルの動きが、国や地方自治体に影響を与え逐次波及していくことに期待を寄せている。

② 「地産地消型商品への企画統一びん導入泡盛びんの地域リユースモデル実証事業」 (H18)

【事業目的・概要】

- 沖縄県内における泡盛リターナブルびんの把握と軽量規格統一びんの投入事業によるリユースシステムの促進
- (1) 沖縄県内のガラスびんのリユース及びリサイクルシステムの実態と課題を把握
- (2) 消費者・泡盛メーカー・流通業界等関係主体のびんリユースに対する意識・行動の把握
- (3) 泡盛用の中小びんを対象に、沖縄県内でのびん規格統一及び協働型の民間回収システムの可能性の検証
- (4) 県内自治体の分別収集におけるリターナブルびん抜取りの方向性を検証

【成果・今後の検討課題】

- (1) 規格統一リターナブルびん投入事業
 - ・「地産地消」をイメージしやすい三合びんの「規格統一びん」化の可能性を改めて泡盛業界が自覚する契機を作れた。省エネリユースの観点から注目される軽量三合びん普及を後押しする事業展開ができた。
- (2) 市民への規格統一びん及びびんリユース PR 事業
 - ・沖縄ではあまりにも日常化しているが故に意識されてこなかったびんリユースやリターナブルびんについて消費者が自覚する契機を作れた。

¹ 各モデル事業の報告書及び「ガラスびんリサイクル促進協議会 リターナブルびんナビ」 (URL : <http://www.returnable-navi.com/>) の情報をもとに整理した結果。以下、同様。

(3) スーパー店頭におけるリターナブルびん回収実験

- ・他容器のような店頭回収でのびんリユースは困難なことが判明し、びん商業界の活力をいかに持続させていくかが課題である点が明らかになった。

(4) 分別収集泡盛びんの選別及び品質管理実験

- ・びんリユースの観点から効果的な分別収集方式のポイントが明らかになった。

③ 「容器包装廃棄物排出抑制及びリターナブル容器利用等調査」 (H18)

【事業目的・概要】

- コンビニエンスストアにおけるリターナブル容器の回収実験・リターナブル容器に関する消費者アンケートの実施
- リターナブル容器の使用促進について、商品開発の成果を一層 PR、ルートの維持・拡大に向けた支援策検討の視点で、コンビニエンスストアが特に消費者の利便性・商品選択の面からリターナブル容器回収拠点として有効に機能しうるかどうかの検証を行う
- コンビニエンスストア5店舗において、コカ・コーラ 190ml のびんの回収実験を行う。返却びんはレジで受け取り、景品を配布。返却率は 24%（販売数 229 本、返却数 55 本）

【成果・今後の検討課題】

(1) 消費者に「売れる」リターナブル容器商品の開発

- ・消費者は「環境」よりも「商品そのものの魅力」により商品を選択する傾向にある。
- ・「衛生面」に対する不安感の払拭が必要

(1-1) 消費者の返却協力

- ・消費者から見た場合、コンビニエンスストアは返却先として魅力
- ・「軽くて持ち運びしやすいこと」よりも「どこでも返せる」ことが重要
- ・若年層の意識・行動が特に課題

(1-2) 流通側の対応

- ・リターナブルびんの回収受付は現状でも多くの系列で実施されているが、より有効な仕組みへの転換が求められる。

(1-3) 食品デリバリーなど新たな市場におけるリターナブル容器導入の可能性について

- ・発展途上の市場であり、今後の動向を見極めつつ、消費者側にも「リターナブル型が望ましい」という情報を提供することが必要。

(2) リターナブル容器の利用促進に関する今後の検討課題

- ・消費者に対する環境情報の提供
- ・効率的な回収システムの構築に向けた調査・研究等の推進

④ 「東京都内における 720ml 等ガラスびんの統一リユースシステム構築モデル事業」(H18)

【事業目的・概要】

- 世田谷区における酒類 720ml R びんのリユースシステム構築のモデル事業
- 東京都内（世田谷区内）において 720ml 等のガラスびんのリユースシステム（充填・流通・販売・回収・洗浄・再使用）を導入し、大都市の特定地域内での回収・資源循環システムを構築するものである。また、回収効率の変化や消費者からのアンケート調査結果等を分析・評価することによって、他地域におけるリターナブル容器普及に資するものである。

【成果・今後の検討課題】

※同事業の事業評価委員会及び事業経過報告会で抽出された課題や対策を基としたまとめ。

(1) 消費者に関する課題

- ① リユースシステムに関する意識と行動をどのように高め、且つ参加者の拡大につなげていくのか。特にガラスびんのリユースは、CO₂ 削減に極めて大きな効果があることを一般に周知する必要があるのではないか。
- ② 消費者が受け入れやすい販売方法（店頭・宅配・業務店・協同購入・通信販売等）と、連動

する回収方法（店頭、宅配、資源回収、有価取引、デポジット、プリペイド、税制対応等）を考える必要がある。

（２）酒類メーカーに関する課題

- ①大手メーカーは全国で展開しており、地域限定の取り組みにどのように参加させるのか。
- ②大都市圏の東京で、「地産・地消」の理念をどのように具体化するのか。
- ③リユースに関する消費者ニーズを、どのように取り入れていくのか。
- ④中小メーカーは、少量・多品種生産であり、多くのメーカーの参加をどのように働きかけるのか。

（３）酒類販売店に関する課題

- ①店頭回収に関する仕組みの確立と使用済みびん持ち込みの消費者対応の改善をどうしていくのか。
- ②消費者の多様性指向にどう対応するのか。（多品種少量の品揃えの必要性）

（４）ガラスびんメーカーに関する課題

- ①720ml びんは、Ｒびんとワンウェイびんを含めて、相当多種生産されており、リユースを進める上では、びんの統一化を考える必要があるのではないか。
- ②Ｒびんをワンウェイ用途に出荷する傾向に対する是正の可能性を探る必要があるのではないか。

（５）地方自治体に関する課題

地方自治体の資源回収システムの強化とびん商の協力が必要である。

⑤ 「リターナブルびん宅配システムの構築」（H18）

【事業目的・概要】

- 酒飯店の宅配システム強化によるリターナブルびんの普及と次世代的回収システムの可能性の検証
- リターナブルはこれまで酒飯店ルートを通じて回収されてきた。しかし酒飯店の減少や業態変化により回収ルートとしての弱体化が懸念されている。
- 一方、酒飯店がこれまで行ってきた宅配は、社会の高齢化や経済のサービス化の中で、消費者に利便性を提供するサービスとしてその可能性が注目される。宅配は酒類販売自由化の中でマーケティングの強化を求められている小売酒販業界にとってもその営業強化の一策としてメリットをもたらすと考えられる。
- このような観点から、リターナブルびん販売店回収ルートの次世代的なシステムとして、宅配の回収システムの可能性と最適な運営方法を検証することを目的として実施。
- 宅配システムの基本コンセプトとして、【１】商品の配達と同時に空きびんを回収、サービスの要素を加味し消費者のびんリユースを促進する、【２】同時回収によりリユースに要するエネルギーの節約を図り、省エネ志向のびんリユース物流を実現すること。

【成果・今後の検討課題】

- （１）具体的に何がリターナブル商品かを明確にすること、リターナブル商品の環境保全上の意義をPRすることにより、消費者の関心を喚起することは可能であった。
しかし消費者が酒類を購入するときのみ訪問する一般酒飯店においては、来店による機会創出はやや困難であり、むしろ宅配システムを通じた取組みが機能した事例が確認できた。
- （２）生活必需品を購入する目的で消費者が多頻度訪問する量販店において、環境保全上の意義とリターナブル商品を明確化することで、効果的なキャンペーンを展開し、かつ空容器の店頭回収の受入れ体制を確保することで、リターナブルびん商品の拡大の可能性はあると思われる。
- （３）宅配機能を有する一般販売店においても、環境保全上の意義とリターナブル商品を明確化することを前提に、宅配サービスを新しいサービスとして広くPRすることにより、リターナブル商品の可能性はあると思われる。
- （４）発生抑制が課題である市町村においてはリユースの促進は重要な課題であり、こういった一部の経済活動を広報紙等で広く広報する全面的な支援体制が求められる。

⑥ 「エコマネー活用型リユース容器導入促進」 (H18)

【事業目的・概要】

- 名古屋市内大型小売店でのエコマネーによるリユースシステムモデル事業
- 実施可能性の高いリユースシステムの構築に関し、名古屋市民の環境問題やごみ問題に対する意識及びリユースびんの受容性、エコマネーの認知度等を調査することを目的として名古屋市民、実証実験店舗の来客に対してのアンケート調査
- リユースびんの普及と最適システムを模索することを目的とした名古屋市内の3つの大型小売店舗の協力を得て実証実験を実施リユースびんの使用拡大と普及可能性について事業者へのヒアリング調査。
- 大規模小売店舗で販売されたリユースびん（Rマークびん、丸正びん）を対象に、特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会が運営している資源回収拠点（リサイクルステーション）に持ち込んでもらい、リユースの輪を形成しようとするもの。リユース促進のために、EXPOエコマネーを活用し、リユースびん入り商品を購入した段階と容器を返却した段階でエコポイントを付与し、消費者へのインセンティブとした。

【成果・今後の検討課題】

- (1) 実証実験によるリユースの仕組みについての評価は、空きびんの回収拠点が少ないこと、エコマネーの交換場所が少ない等の課題が指摘された。
- (2) 今後リユースびんの認知度を更に上げることが必要である。
- (3) 本実証調査で採用したリユースシステムを基調とし、回収拠点の拡充、回収対象となる商品の拡大、消費者のリユースびん入り商品の購入・返却を促す十分なインセンティブを検討することが必要である。

⑦ 「首都圏近郊政令指定都市における 720ml・900ml ガラスびんの統一リユースシステム構築モデル事業」 (H19)

【事業目的・概要】

- 川崎市における焼酎、清酒のRびんリユースシステム導入モデル事業
- 南九州及び東京都内で実績のある900ml及び720mlの統一規格びんを神奈川県川崎市で展開することにより、生産地と消費地を結ぶ効率的なリユースシステムを目指すものである。
- 事業実施地域は新城商店街
- 対象商品…900ml 統一規格びん焼酎2銘柄、720ml 統一規格びん清酒2銘柄
- 720ml・900ml リユースびんの出荷・販売・回収状況（3酒販店、6ヶ月分）
仕入れ総本数…2,060本、販売総本数…1,951本、
回収総本数…川崎市全域分別収集4,925本、店舗回収…938本

【成果・今後の検討課題】

- (1) 商品の内容に重点をおく消費者の目を、どうしたら「びん」に向けることができるのか工夫が必要。
- (2) リユースシステムに関する意識と行動をどのように高め、かつ消費者の参加の拡大につなげていくのか。
- (3) ガラスびんのリユースは、特にCO₂削減に極めて大きな効果があることを消費者に周知することが必要。
- (4) 消費者が受け入れやすい販売方法（店頭・宅配・業務店・共同購入・通信販売等）と、連動する回収方法（店頭、宅配、資源回収、有価取引、デポジット、プリペイド、カ制対応等）を考える必要があるのではないかと。
- (5) スーパー、コンビニなど消費者と直接係りの薄い販売店が、どうしたら対面販売の店舗と同じように消費者に働きかけることができるのか、工夫する必要があるのではないかと。
- (6) 店頭回収に関する仕組みの確立と使用済みびん持込みの消費者対応の改善をどうして行くのか。
- (7) 現在の多品種少量の品揃えに対する消費者の多様性志向にどう対応するのか。

- (8) 容器包装全体の問題でもあるが、ガラスびんの環境優位性について、もっと社会的に認知を高める必要がある。

⑧ 「エリア限定型の携帯可能リターナブルびん利用・流通システムの構築」 (H19)

【事業目的・概要】

- エリア限定型の新しいリターナブルびんの利用・流通システムの構築及び事業者等によるリターナブルびんの導入促進 (R ドロップス)
- びん再使用ネットワークが学生や NPO メンバーらと共同で開発した、軽くて、持ちやすく、スタイリッシュで「携帯可能リターナブルびん (R ドロップス) を活用したエリア限定型の新しいリターナブルびんの利用・流通システム (消費者が大学など構内を携帯しつつ飲用し、構内を出る際には当該びんを指定場所に返却・回収する利用・流通システム)」の構築を目指すと共に、「R ドロップス」の普及広報活動を通じて需要を喚起し、事業者等におけるリターナブルびんの導入促進を図ることを目的とした。
- また、「エリア限定型の新しいリターナブルびん利用・流通システム」の有効性を実証するため、R ドロップスを利用した大学生協でのテスト販売を実施し、ライフサイクルアセスメントによるリターナブルびんの省エネ効果の検証、当該流通形態における課題の抽出と解決に向けた検討を進め、将来的なビジネスモデルの提案につなげることを目指した。

【成果・今後の検討課題】

- (1) 「R ドロップス」の普及広報活動については、ポスター・チラシ・ホームページの一体的作成等により、短期間でのアナウンスだったにもかかわらず、WEB アンケートに 762 件の回答が寄せられるなど、大きな成果があったと考えられる。
- (2) 空びんのエココンでの回収率は 74.4%と想像以上の高い回収率となり、エリア限定型で販売した場合には、高い回収率が期待できることがわかった。
- (3) 実際にテスト販売をすることにより、一連の工程での課題が明らかになり、「R ドロップス」の事業者採用に向けた基礎情報を整理することができた。
- (4) ライフサイクルアセスメントの実施では、「R ドロップス」の再使用による省エネルギー効果や CO₂ 排出量削減効果を具体的数値で明らかにすることができた。
- (5) 「R ドロップス」を標準的なロットで取扱った場合の新びん価格と洗びん価格について、各事業者の協力により、概算価格を明らかにすることができた。
- (6) WEB によるアンケートや学生・消費者アンケート、事業者アンケートの各結果を集約・分析し、トータルに俯瞰することで「R ドロップス」普及のための道筋が見えてきた。
- (7) 本事業により、「軽くてスタイリッシュなリターナブルびんを活用したエリア限定型の新しいリターナブルびんの利用・流通システムの構築」に向けて、学生や消費者の要望や期待、デポジットに対する考え方や実際の態度、事業者の不安や期待、実際に導入する上での課題等々、様々な情報を獲得することができた。
- (8) 今後は、かかる情報を関係当事者に広く伝えていくと共に、課題解決に向けた次のステップへの準備を開始する予定である。

⑨ 外食業務店でのびんリユースシステムの構築 (H21)

【事業目的・概要】

- ワタミグループ外食店舗が取り扱うびん商品のリユースシステム構築
- ワタミグループでワンウェイプライベートブランド商品であるびん商品（「わたみ日本酒」「わたみんな家日本酒」）についてリユースシステム（充填・流通・販売・回収・洗浄・再使用）を確立する。
- その実現のため、関係する関係事業者や従業員の役割と課題明確にする。合わせてびんの回収率・分別率などの調査に基づいて環境負荷低減効果を定量的に把握する。

【成果・今後の検討課題】

(1) 地域拡大について

・本事業では、限られた地域（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県）を対象に事業を実施した。しかしながら、ワタミ外食店舗は、日本全国（北海道から鹿児島まで）に店舗が拡散しており、びんリユースシステムの地域拡大が今後の検討課題として挙げられる。具体的には、酒造メーカーが首都圏内にあるため、遠方からの物流の仕組みと物流コストが課題となってくる。

(2) リユースびん対象商品の拡大について

・本事業では、PB 商品であるわたみ日本酒とわたみんな日本酒の商品を対象に事業を実施した。しかしながら、ワタミグループ外食店舗には、日本酒・ウイスキー・焼酎などの多種多様なびんがある。PB 商品に限らず、NB 商品（ナショナルブランド商品）においてもびんリユースシステムを構築していくことが今後の検討課題として挙げられる。具体的には、容器の規格統一や酒造メーカーに対して、リユースびんの推奨や環境負荷低減効果を強調していくことが課題となってくる。

2.2 既往モデル事業の共通課題

既往モデル事業での取組概要、成果、今後の課題等を踏まえて、リユースびん導入に際しての共通的な課題を整理する。

(1) 消費者の意識・関心・情報の向上について

各モデル事業において課題として挙げられた項目を俯瞰すると、消費者の意識・関心の喚起、具体的な情報提供と蓄積を推進し、更なる市民参加の拡大に繋げていくことが課題となっていることがうかがわれる。

<既往モデル事業における課題>

- ・900ml 茶びん（統一規格びん）の普及促進：ポスター・パンフレット等を使って、地方自治体、小売店、関係団体等を通じて対象地域の各業界方面、一般消費者に本事業の更なる普及啓発活動を行う必要がある。（出所：①）
- ・食品デリバリーなど新たな市場におけるリターナブル容器導入の可能性について：発展途上の市場であり、今後の動向を見極めつつ、消費者側にも「リターナブル型が望ましい」という情報を提供することが必要。（出所：③）
- ・消費者に対する環境情報の提供（出所：③）
- ・発生抑制が課題である市町村においてはリユースの促進は重要な課題であり、こういった一部の経済活動を広報紙等で広く広報する全面的な支援体制が求められる。（出所：⑤）
- ・リユースシステムに関する意識と行動をどのように高め、かつ消費者の参加の拡大につなげていくのか。（出所：⑦）

(2) 流通の仕組み・体制等の整備・強化について

消費者の着手と取り組みを支える基盤として、回収を含めた流通の仕組み・体制の整備・強化が求められている。

特に、流通と消費者の接点となる販売と回収の現場において、より効率的かつ効果的な工夫と仕組みづくりが課題となっていることがうかがわれる。

<既往モデル事業における課題>

- ・スーパー店頭におけるリターナブルびん回収実験：他容器のような店頭回収でのびんリユース

は困難なことが判明し、びん商業界の活力をいかに持続させていくかが課題である点が明らかになった。(出所：②)

- ・分別収集泡盛びんの選別及び品質管理実験：びんリユースの観点から効果的な分別収集方式のポイントが明らかになった。(出所：②)
- ・流通側の対応：リターナブルびんの回収受付は現状でも多くの系列で実施されているが、より有効な仕組みへの転換が求められる。(出所：③)
- ・消費者が受け入れやすい販売方法（店頭・宅配・業務店・協同購入・通信販売等）と、連動する回収方法（店頭、宅配、資源回収、有価取引、デポジット、プリペイド、税制対応等）を考える必要がある。(出所：④)
- ・生活必需品を購入する目的で消費者が多頻度訪問する量販店において、環境保全上の意義とリターナブル商品を明確化する中で、効果的なキャンペーンを展開し、かつ空容器の店頭回収の受け入れ体制を確保することで、リターナブルびん商品の拡大の可能性はあると思われる。(出所：⑤)

(3) 利用に係るデメリットの軽減について

消費者におけるデメリットの軽減については、衛生面の不安払拭が挙げられたほかは、特に課題として強調されている事例が見受けられなかった。

＜既往モデル事業における課題＞

- ・「衛生面」に対する不安感の払拭が必要。(出所：③)

(4) 利用に係るメリットの増強について

メリットについては、リユースびん利用による環境負荷低減効果が重視されており、消費者がリユースびん利用により、環境負荷低減に貢献している実感を深め、満足を得る工夫・仕組みが求められる。

また、環境負荷低減のみならず、返金などの実利的なインセンティブの強化、さらに商品そのものの魅力を増し、相乗効果を創出するような、付加価値の高いリユースびんの開発と活用が課題になっているものとみられる。

＜既往モデル事業における課題＞

- ・消費者に「売れる」リターナブル容器商品の開発：消費者は「環境」よりも「商品そのものの魅力」により商品を選択する傾向にある。(出所：③)
- ・リユースシステムに関する意識と行動をどのように高め、且つ参加者の拡大につなげていくのか。特にガラスびんのリユースは、CO₂削減に極めて大きな効果があることを一般に周知する必要があるのではないか。(出所：④)
- ・本実証調査で採用したリユースシステムを基調とし、回収拠点の拡充、回収対象となる商品の拡大、消費者のリユースびん入り商品の購入・返却を促す十分なインセンティブを検討することが必要である。(出所：⑥)
- ・商品の内容に重点をおく消費者の目を、どうしたら「びん」に向けることができるのか工夫が必要。(出所：⑦)
- ・ガラスびんのリユースは、特にCO₂削減に極めて大きな効果があることを消費者に周知することが必要。(出所：⑦)
- ・容器包装全体の問題でもあるが、ガラスびんの環境優位性について、もっと社会的に認知を高める必要がある。(出所：⑦)
- ・ライフサイクルアセスメントの実施では、「Rドロップス」の再使用による省エネルギー効果

- や CO₂ 排出量削減効果を具体的数値で明らかにすることができた。(出所：⑧)
- ・ R ドロップス」を標準的なロットで取扱った場合の新びん価格と洗びん価格について、各事業者の協力により、概算価格を明らかにすることができた。(出所：⑧)

(5) その他

消費者の観点を主軸として、各モデル事業の共通課題を整理してきたが、取り組みの持続と発展を図るため、関連する事業者への働きかけ、さらに消費者レベルの動きを地域・国に広げていくことが課題となっていることがうかがわれる。

<既往モデル事業における課題>

- ・ 南九州における 900ml 茶びん（統一規格びん）の普及拡大に向けて活動を開始した市民レベルの動きが、国や地方自治体に影響を与え逐次波及していくことに期待を寄せている。(出所：①)
- ・ 統一規格びん採用清酒・酒造メーカーの拡充：南九州における各県の小売店組合の協力を得て、清酒・酒造メーカーに協力を呼びかける必要がある。(出所：①)
- ・ WEB によるアンケートや学生・消費者アンケート、事業者アンケートの各結果を集約・分析し、トータルに俯瞰することで「R ドロップス」普及のための道筋が見えてきた。(出所：⑧)
- ・ 実際にテスト販売をすることにより、一連の工程での課題が明らかになり、「R ドロップス」の事業者採用に向けた基礎情報を整理することができた。(出所：⑧)

2.2.2 各モデル事業の特徴に応じた固有の課題

NO	実施者等	名称	各モデル事業の特徴と課題
①	(社)環境生活文化機構	南九州における900ml 茶びんの統一リユースシステムモデル事業	南九州の複数の県に跨る広域において、関連業界の事業者（製造、充填、流通、回収、再使用）の連携により、実務的な取り組みが開始されたことが特徴である。 実践を重視する観点から、リユースシステムの要となる回収専用P箱の導入まで踏み込んだうえで、その普及啓発が課題として挙げられている。
②	(株)ダイナックス都市環境研究所等	地産地消型商品への規格統一びん導入泡盛びんの地域リユースモデル実証事業	沖縄県という、比較的資源循環がし易いと考えられる県域において、地場産品の泡盛の流通に統一規格リターナブルびんの導入を検討した点が特徴である。 店頭回収は難しいとの判断であり、地域のびん商業界との連携が課題となっていく。
③	(財)食品産業センター	容器包装廃棄物排出抑制及びリターナブル容器利用等調査	リユースびんの回収拠点として、コンビニエンスストアを活用した点が特徴である。コンビニエンスストアの客層に応じ、若年層の意識・行動喚起を図るとともに、どこでも返せるという利便性を高め、更に効率的な回収の仕組みを開発していくことが課題となっている。 5店舗、190ml びんのみを対象としており、店舗を拡大した場合や、他のびんで実施した場合にどのような回収状況になるかも検討課題となる。
④	(社)環境生活文化機構	東京都内における720ml 等ガラスびんの統一リユースシステム構築モデル事業	世田谷区という大都市特定地域内において、リユースシステムの構築に取り組んだ点が特徴である。 消費者をはじめ、酒類メーカー、酒類販売店、ガラスびんメーカー、地方自治体と、幅広い主体における多様な課題が挙げられている。
⑤	ガラスびんリサイクル促進協議会	リターナブルびん宅配システムの構築	酒販店による宅配システム（宅配と同時に回収も行う）を試行したことが特徴である。 環境保全効果、リターナブル商品の明確化などを含め、宅配サービスを新しいサービスとしてPRすることが課題として挙げられている。
⑥	中部リサイクル運動市民の会	エコマネー活用型リユース容器導入促進	消費者によるリユースびんの購入と回収にあたり、その都度エコマネーを提供した点が特徴である。 課題として、空きびんの回収拠点、エコマネーの交換場所が少ないことなどが挙げられている。
⑦	(社)環境生活文化機構	首都圏近郊政令指定都市における720ml・900ml ガラスびんの統一リユースシステム構築モデル事業	川崎市内の商店街を対象として、リユースモデル構築を試行した点が特徴である。 多様な業態の小売店に対応し、多品種少量の品揃え、消費者の多様性志向に対応するような、臨機応変な弾力性のある運用を可能とする仕組み・工夫が課題となっているものとみられる。
⑧	びん再使用ネットワーク	エリア限定型の携帯可能リターナブルびん利用・流通システムの構築（Rドロップス）	大学構内においてシステム構築を試行したことが特徴である。また、Rドロップスという斬新なデザインのびんを利用していることが特徴である。 高い回収率を実現しており、今後は、同事業を通じて蓄積された情報・ノウハウ等の活用が課題となると想定される。
⑨	ガラスびんリサイクル促進協議会	外食業務店でのびんリユースシステムの構築	関東地域を中心に事業を展開してきたが、地域拡大が今後の検討課題となる。その際、酒造メーカーが首都圏内にあるため、遠方からの物流の仕組みと物流コストが課題となってくる。 プライベート商品を対象に事業を実施したが、ワタミグループ外食店舗では、日本酒・ウイスキー・焼酎などの多種多様なびんがある。PB 商品に限らず、ナショナルブランド商品でのリユースが課題となる。

※本資料は、文献調査より各モデル事業の特徴と課題を整理したもの。詳細は実施者等への確認が必要である。

(以上)